



「一歩進んだUAV利活用事例」を開いた写真。会員各社からオンラインも含めて約500人が参加。

レーザー計測の事例など紹介

日測協、UAV計測実務者向けセミナー

日本測量協会（日測協、清水英範会長）は6日、東京都品川区の品川フロントビルで「実務者向けセミナー」を開催した。約500人が参加した。

UAV（無人航空機）計測技術の最新動向や活用事例などを紹介した。

冒頭あいさつした住田英二専務理事は「セミナーを開始した2017年からさらにUAVが普及し、活用の幅も広がっている。測量手段の中心的存在と言っても過言ではない。UAVを

活用したさまざまな事例を多くの人に共有してもらい、今後の利活用に生かしてもらいたい」と呼び掛けた。

セミナーでは▽UAV計測技術の最新動向（ルーチエサーチ・渡邊豊氏）▽佐渡金銀山関連施設におけるUAVと各種レーザを併用した活用事例について（オリス・本田久人氏）▽UAVレーザと地上レーザ等を併用した3次元計測事例（フジヤマ・市川富崇氏）▽各種レーザ計測データによる現況地形の把握（日本工営都市空間・岡田征太郎氏、宮山智樹氏）▽UAVレーザと各種センサーを併用した3次元計測事例（快適空間FC・鵜飼尚弘氏）の5テーマで講演した。